



子どもの日に思う… 大人・保護者の役割



昨年の3月から孫一家との同居が始まり、一年がたった。同居を始めて、孫への関わりで自分に科していたことがある。それは、孫が喜ぶからといって、何でも買い与えないこと。(孫の喜ぶ顔が見たい！)

(買ってあげたい!)という衝動に駆られた時は、「子どもをダメにしようと思ったら…」(ルソーの言葉)を思い返して葛藤している。

ただ、子どもの日ということで、翌日になったが、孫と二人で買い物に出かけ、ガチャガチャ(1回)と好きなお菓子を選ばせた。(母親の了解を取った上で)当然、孫はご機嫌。こちらも気分がいい。

そんな時、数年前の教え子とのやりとりを思い出した。

市教委に勤めていた時、当時小6の子を持つ教え子から電話が入った。「先生、相談があるんやけど、行っていい?」「もちろん、市民の相談は受けます!」

相談の内容は、次のような内容だった。…仲の良い女の子のグループで、USJの年間パスを購入。はじめは良かったが、今は、グループから外れている。一人ぼっちになっている。どうしたらいい?…。

まず尋ねた。「何で、USJの年間パスを買ったんや?」

「友達みんな買うから、かわいそうになって…」

「みんな持ってるんか?」

「年間パスを買い与えて、子どもだけでUSJに行かせて、結局誰がつらい思いをするんや!」

「家(うち)には家(うち)のルールがある!必要なものなら買うけど、子どもだけでUSJに行かないとグループに入れられないんやったら、その子らと付き合い合ってもいい!親が、毅然とせな!」

「……………」

「担任の先生に、都合の悪いことも、正直に話して、相談にのってもらい。」

確か、こんなやりとりだった。

子どもの日の翌日の孫との楽しい時間だったが、かつて自分が教え子に吐いた言葉も思い返した。その言葉の重みを、忘れないでおこう。



スイス・バーゼルから

昨年、短期留学に来られた、スイス在住の山本さんから、お便りとともに、スイスの写真が届いた。ご縁のある方からいただいた写真なので、スイスにもヨーロッパにも行ったことはありませんが、何か行った気分、知ってる気分にもなる。

今年の留学の折には、是非、いろいろとお話しも伺いたい。美しい景色を、お楽しみください。

3月家の裏の小川



最近見られた朝日



動物園で発見した
コウノトリの巣



4月街中の教会



4月近くの散歩道



先日、2016年の世界選手権種目別床で金メダルを獲得し、翌2017年のワールドカップ個人総合で金メダルを獲った女子体操選手・村上茉愛さんを取り上げた番組を観た。メダル獲得が期待される男子と比べて、オリンピック出場が課題の女子。あまり注目されることがなかった。そこに、跳躍力から“ゴムまり娘”と称される村上選手の登場で、注目が集まっている。

その村上選手の変わり目となったのが、大学に入って大きな試合で惨敗した時、試合後のミーティングで投げられた、監督からの鋭い一言。「考え方を改めな！」一種目の平均台でミス。挽回を期した得意の床でも、前半でミス。床の最後の技は、試合を投げ出した平凡な技に変えた。

監督は言う「失敗からは、学ぶことがあるが、投げ出したら、何も学べない」と。

そこから、村上選手は、自己の甘さと向き合い、課題の体重コントロール、苦手な平均台に真摯に取り組んだようだ。2016年の世界選手権では、個人総合の二種目・平均台で落下。メダルの可能性が消えた。しかし、村上選手は投げ出さず、残りの二種目で挽回。メダルには届かなかったが、個人総合4位に入った。そして、続く種目別床で、最高の演技を行い金メダルを取った。演技を終えた村上選手をハグで迎えた監督。村上選手の「投げ出さなかった」心と精神力を賞賛したのだった。

“失敗”と“投げる”は、ちがう！